



I/O モジュール管理

- [Cisco UCS Manager CLI での I/O モジュール管理 , on page 1](#)
- [IO モジュールの認識 \(1 ページ\)](#)
- [I/O モジュールのリセット, on page 2](#)
- [ピア I/O モジュールからの I/O モジュールのリセット \(3 ページ\)](#)

Cisco UCS Manager CLI での I/O モジュール管理

Cisco UCS ドメイン内のすべての I/O モジュールは、Cisco UCS Manager CLI を使用して管理およびモニタできます。

Cisco UCS Manager Release 3.1(1) では、Cisco UCS 6300 シリーズ ファブリック インターコネクタとの 40 GbE の接続を実現する、Cisco UCS-IOM-2304 I/O モジュールが導入されました。この機能の詳細については、『*Cisco UCS Manager Getting Started Guide*』を参照してください。

IO モジュールの認識

Cisco UCS Manager リリース 2.2(4) には、シャーシ内の特定の IO モジュールを認識する機能が導入されました。



- (注)
- ファブリック インターコネクタと IO モジュール間の物理リンクを追加または削除した後、接続を正しく構成するには、IO モジュールの確認応答が必要です。
 - 各 IO モジュールを個別に再確認する機能により、他のファブリック インターコネクタの本番トラフィックを中断することなく、単一の IO モジュールとその親ファブリック インターコネクタ間のネットワーク接続を再構築できます。
-

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope chassis <i>chassis-num</i>	指定したシャーシのシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis # acknowledge iom {1 2}	シャーシで指定した IOM を認識します。
ステップ 3	UCS-A /chassis* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、IO モジュール 1 を認識し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A /chassis # acknowledge iom 1
UCS-A /chassis* # commit-buffer
UCS-A /chassis #
```

I/O モジュールのリセット

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope chassis シャーシ番号	指定したシャーシのシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis # scope iom {a b}	指定した IOM でシャーシ IOM モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/iom # reset	IOM をリセットします。
ステップ 4	UCS-A /chassis/iom # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、ファブリック A の IOM をリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A /chassis # scope iom a
UCS-A /chassis/iom # reset
```

```
UCS-A /chassis/iom* # commit-buffer
UCS-A /chassis/iom #
```

ピア I/O モジュールからの I/O モジュールのリセット

I/O モジュールのアップグレードが失敗したり、メモリ リークにより Cisco UCS Manager から I/O モジュールにアクセスできなくなったりする場合があります。このような場合でも、アクセスできない I/O モジュールをそのピア I/O モジュールからリブートできるようになりました。

I/O モジュールをリセットすると、I/O モジュールが工場出荷時の設定に復元され、すべてのキャッシュ ファイルと一時ファイルが削除されますが、サイズ制限付きの OBFL ファイルは保持されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope chassis <i>chassis-num</i>	指定したシャーシのシャーシ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis # scope iom { <i>a b</i> }	指定した IOM でシャーシ IOM モードを開始します。 リセットする IOM のピア IOM を指定します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/iom # reset-peer	指定された IOM のピア IOM をリセットします。
ステップ 4	UCS-A /chassis/iom* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、IOM a から IOM b にリセットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A /chassis # scope iom a
UCS-A /chassis/iom # reset-peer
UCS-A /chassis/iom* # commit-buffer
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。